

〈肉牛に関するメモ〉

☆表紙②で紹介した記事に関連して、日本短角種に関するメモを若干おくります。☆

◎日本短角種の位置づけ

表1 肉用牛の品種別飼養頭数・戸数

(頭, 戸)

品 種	黒毛和種	褐毛和種	無角和種	日本短角種	アバディーン アンガス種	ヘレフ オード種	そ の 他	計
種 雄 牛	1,293 (61.5)	177 (8.4)	15 (0.7)	455 (21.7)	71 (3.4)	81 (3.9)	9 (0.4)	2,101 (100.0)
雌 牛	782,877 (86.1)	91,363 (10.0)	1,566 (0.2)	25,241 (2.8)	3,568 (0.4)	4,591 (0.5)	248 (0.0)	909,454 (100.0)
雌牛飼養農家	236,758	21,404	762	6,204	108	178	76	265,107

注. 肥育牛は除く

農水省家畜生産課調べ (昭58. 2. 1)

◎日本短角種の生いたち

古くから岩手、青森、秋田の山岳地帯で飼養されていた南部牛（雄で体高117～126cm、雌で111～117cmの小型で、四肢は短く、関節が丈夫であった）に、明治4年以降購入されたショートホーン種が交配され、それを基礎として北東北の厳しい自然環境下で、夏山冬里方式により飼養され、改良された品種である。

◎品種としての特徴

- ①粗飼料の利用性が優れている…山で育ち、放牧に適している。
- ②抗病性に優れ、強健。
- ③繁殖能力、長期連産性、泌乳能力が優れ、子育てが良い。
- ④増体重、飼料要求率等肥育能力がすばらしい。
- ⑤枝肉の均称、肉づきが良く、脂肪が少ない。

◎岩手県岩泉町における飼養事例

ここでは、米・野菜と肉牛との複合経営で、子牛生産を主とし、肉牛の飼養方式は夏山冬里方式である。繁殖はまき牛方式による（分娩は3～4月に集中し、分娩率は91.1%）。

①夏季間における放牧

・標高900～1,000mの高原台地に放牧地があり、集落からは遠距離にある。野草地が多く利用されているが、近年は草地改良によって牧草地が増加



しつつある。

・牧草地は、

オーチャードグラス
ペレニアルライグラス
チモシー
トールフェスク
シロクロバ

の5草種混播

②越冬粗飼料の生産状況

昭和40年代前半までは、越冬粗飼料の大半が野草で占められていたが、40年代の後半からは、牧草、トウモロコシなどを畑に作付して生産利用するようになり、野草の利用は大きく減少してきている。牧草とトウモロコシの作付は、1頭当たり0.2haになっている。

表2 粗飼料の生産利用状況

種 類	生収量 (10a当り)	作 付 場 所	調 製 方 法	調 製 時 期
牧 草	6,000kg	10～35° の傾斜地	乾草, サイレージ	6月, 7月, 9月
青刈トウモロコシ	7,000	畑	サイレージ	9月
野 草	700	10～35° の傾斜地	乾草	9～10月

注 i) 畑以外は、急傾斜地 (10～35°) なので、調製作業は手作業である。

ii) 水田からの副産物である稲わらも粗飼料として利用。

(資料: 主として、第15回国際草地学会議、農業者の集いによる)